

シリーズ 外科医療最前線

外科 大野義一郎(医師)



自由に他の病院の意見を聞く権利

手術を受けることは人生の一大事です。「手術が必要だ」と説明されても、本当に手術以外の方法はないのか？手術をうけるにしても別の手術の方法はないのか？と本人も家族も悩むのがあたりまえです。

そこで最近では、手術の話をしたときに「セカンドオピニオンをききにいくことができません」とつけくわえるようにしています。セカンドオピニオンは日本語になおすと「第2の意見」「別の意見」のような意味で、自由にほかの病院に意

見をききにいく権利のことです。そうお話しすると「ほかの病院にいったら医者は気分を悪くするのではないか」とか「ここで治療すると決めていたのにむこうでは説明してくれないか」といまでも心配されるかたが少なくありません。

なるほど昔はそんなこともありませんでしたが、今はそんな医師はいまもありません。ぎゅくに医師のほうからおすすめることも多くなりまして、また大学病院やがんセンター、癌研など大きな病院ではセカンドオピニオン専門の外来もできてきました(一部有料のところもあります)。

なぜセカンドオピニオンが大切かというと、日進月歩の医学の中で医師は自分の一番いいと考える治療方法をきいてみるのが大事になるのです。そのようにべつの角度から話をきくことで理解もふかまり、治療にたいして納得と信頼ができることも大切な点です。

もちろんほかの病院で治療を受けていて代々木病院でセカンドオピニオンを聞くことも可能です。

「お正月くらい好きだけ呑んでも良いだろう」と考えている人もいるでしょう。わが国には古来から、五穀豊穡を願い、四季折々に「神とともに」催事

「お正月くらい好きだけ呑んでも良いだろう」と考えている人もいるでしょう。わが国には古来から、五穀豊穡を願い、四季折々に「神とともに」催事

わが国では、庶民の酒の呑み方がハレの日だけに限られていたから安全だったのです。機会飲酒といえます。

庶民の酒の歴史



「お正月くらい好きだけ呑んでも良いだろう」と考えている人もいるでしょう。わが国には古来から、五穀豊穡を願い、四季折々に「神とともに」催事

「お正月くらい好きだけ呑んでも良いだろう」と考えている人もいるでしょう。わが国には古来から、五穀豊穡を願い、四季折々に「神とともに」催事

酒

としてみなで酒を呑んだ習慣があります。正月、祭、婚礼、収穫などのハレの日です。直会(なわらい)と称される「礼講」です。

庶民にとって、毎日発がん物質が体内に存在することに不安を、欧米では少ない、消化器がんを含め、さまざまな悪性腫瘍をつ



面談室

「理解すること」で治療の効果が高まる

「理解すること」で治療の効果が高まる

「理解すること」で治療の効果が高まる

くすりの話 あれこれ①

【かゆみの原因】

寒くなると肌のかゆみを訴える人が増えますが、その原因の多くは乾燥です。冬は気温が下がって汗の量も少なくなり、肌の水分も減少して痒みがでけます。

皮膚は体内から水分が蒸発するのを防ぐ「保湿機能」や、体に必要なものが侵入するのを防ぐ「バリア機能」として働いています。

しかし皮膚は乾燥に弱いものです。皮膚が乾燥すると、その表面から水分や油分が奪われて「バリア機能」が低下し、外からの刺激に無防備な状態になっています。「バリア機能」が低下した乾燥肌



は、ちょっとした刺激にも敏感に反応し、かゆみを生じやすくなります。

無防備な乾燥肌を保護するには水分と脂が重要です。保湿剤を塗ることが基本となります。

保湿剤のタイプには次のようなものがあります。

尿素が入ったセラチニン軟膏は、水分を保ち潤いを与えます。皮膚をやわらかくする効果もあります。

冬の肌のかゆみ—原因は乾燥。スキンケアで「保湿・バリア機能」守ろう

岡本 明子(たくみ外苑薬局・薬剤師)

ヒルドイドソフトは保湿効果と、血行を良くする作用があります。ワセリンが入った軟膏は皮膚の表面に脂の膜を作って、水分が蒸発するのを防ぎます。

どの保湿剤も優しくなるように塗ってください。すり込むと刺激になってしまいます。また、入浴後すぐの、肌がしっとりしている時に塗るのが効果的です。水分を肌にとどめることができます。

かゆみがひどい場合や、症状が悪化した時には飲み薬を使うこともあります。抗ヒスタミン薬です。これはかゆみや炎症を抑える働きがある薬ですが、かゆみの原因である乾燥

は治せません。そのため飲み薬とあわせてスキンケアが必要です。自分にあった保湿剤をこまめに使い続けましょう。症状がひどい場合は必ず皮膚科を受診してください。

【乾燥が原因ではないかゆみ】

かゆみの原因は乾燥だけではなく、内臓の病気でもかゆみが出る場合があります。保湿剤を使っても症状が改善しない場合や、かゆみが長く続く場合は皮膚科専門医に相談してください。

ふだんの生活では空気の乾燥に気をつけたり、加湿器をつけたりすると効果的です。